学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

愛媛県立宇和高等学校
学校番号（38）

評価実施日	令和５年２月14日（火）						
	氏　名	所　　属　　等	備　考	氏　名	所　　属　　等	備　考
委員	竹森　昌之	西予警察署地域警備課長	学校評議員	兵頭　喜也	八幡浜支局地域農業室西予農業指導班	
	堀田　利知	ボーイスカウト県連盟理事	学校評議員	上甲　成栄	学識経験者　学習塾講師	
	一井　健二	西予市役所生活福祉部長	学校評議員	西田　卓史	西予市立宇和中学校教頭	
	山本　健二	地域在住者　前下宇和保育園長	学校評議員	三瀬　一也	宇和高校ＰＴＡ副会長	
	和氣宗一郎	西予市商工会青年部元部長	学校評議員			

評　価　・　提　言　等	提言等に対する改善方策等
１　今年度の最終評価について	
（１）学校経営	
○校長のリーダーシップのもと、特色ある学校づくりが生徒目線で実践されている様子がうかがえる。宇和高校にとって県立学校振興計画が大きな分岐点になる。衆知を結集して生徒数の確保と高校の再生に向けた斬新な取組に期待している。振興計画で総合学科が提案されているが、これを実現することが宇和高校存続のためには必要だと思う。多様な学びが実現できる総合学科を作ってほしい。総合学科がスタートする段階でしっかりインパクトのあるＰＲ活動ができるかどうかも大切である。	○小規模校としてのメリットを生徒に還元する取組を進めていることが、進路指導や部活動指導においてプラス効果として表われはじめていると実感している。今後は、県立学校振興計画で示された新たな宇和高校が、より良い形で地域に貢献できる学校として再出発できるよう、地域をはじめ本校関係者と連携を密にしながら協議を進めていきたいと考えている。
○西予ＣＡＴＶの積極的な活用について、野村高校と連携するなど、定期的な番組の企画などを検討してはどうか。生徒が主体となる情報発信により、生徒募集や知名度アップなど効果が期待できるのではないだろうか。	○宇和高校は地元西予市からの進学率が高い学校であり、ＣＡＴＶの活用は、学校のＰＲのためには有効である。どのような活用が効果的か検討したい。
○危機管理マニュアルについて、交通事故や不審者対策、ハラスメント問題など、今日的課題への対応を強化していただきたい。また、危機管理マニュアルは改訂作業中とのことであるが、改訂することが目的ではなく、生徒に危機意識を醸成することが重要である。防災訓練実施にあたっても、生徒が真剣に取り組む訓練となるよう指導をお願いしたい。	○生徒の安全を守り危機意識を高めるため、必要事項を精査し、速やかに行動することができるマニュアルを作り周知したいと考えている。また、生徒の避難訓練時の対応や態度は良好であるため、さらにレベルの高い避難訓練を目指して取り組みたい。
（２）学習指導	
○ＩＣＴを活用した教育形態は、ますます活発化していく。教職員の技術習得について、研修の機会などを増やし、計画的にスキルアップを図る必要があると思う。	○現在、外部研修等への積極的な参加や校内研修の充実等によりスキルアップを図っているところであり、今後もより一層力を入れて取り組みたい。
○今日、子ども達の読解力が低下している中にあって、図書室の利用状況が良好であることは大変良い傾向である。今後教職員の利用促進も進められるとのことなので、さらに積極的な取組を期待したい。	○来年度もより多くの読書冊数となるように、図書委員会とも連携して取り組みたい。
○高校生の頃は興味を持ったことに対して時間に関係なく没頭して取り組む。それぞれの生徒が持っている良いところを引き出してやれる教職員であってほしい。	○ＨＲ担任の通常面接、全校一斉面談等により、生徒一人一人の個人理解を深め、今後も、生徒がよりよい学校生活が送ることができるよう努めていきたい。
○保護者アンケートにおいて、生徒の家庭学習が十分できているかの数値が上昇している。生徒の家庭学習について保護者はシビアにみる傾向にあると思うが、その数値が上がっていることは、高校として学習意欲を高める工夫された取組などがされているのではないかと感じた。	○教科担任間の相互理解を深め、課題等の質・量を精選し、提出期日等も考慮に入れるなど、今後も学習意欲を高めるための工夫をしていきたい。
（３）生徒指導	
○町中で生徒から挨拶されることが多く、宇和高生の挨拶は町内でも定評がある。笑顔で挨拶ができる生徒が増えているのは、教職員の普段の姿ではないかと思う。ただ、コロナ禍でやや停滞気味な感じもするので、生徒を激励しながら伸ばしていってもらいたい。	○宇和高生が挨拶できるのは、小・中学校の先生方の指導と地域が子どもを育ててくれることが大きい。今後も挨拶を通じて人として成長できるよう、指導していきたい。
○「三つのする」の積み重ねによる成果を感じる。生徒が主体的にルール作りを行い実践していることに感心する。身だしなみ指導合格者 100%の目標は、省いてもいいのではないか。	○身だしなみ指導合格者 100%を目指しているが、日頃から主体的に身だしなみを意識することが大切であると考えているので、「100%」を省くことも検討したい。
○全国的に問題となっている「いじめ問題」については、深刻化すれば警察捜査を必要とする案件にもつながりかねない。常日頃から生徒の動向把握等について高いアンテナを張り、小さいうちに芽を摘み取ることが必要だと思う。警察に対する相談が必要と認められる案件については、警察との情報共有をお願いしたい。	○悩みのアンケートや面談を通じて、今後も生徒の動向に注視したい。お互いの感じ方や捉え方で、いじめやＳＮＳでのトラブルが起こることが多い。非行防止教室や日頃の指導を通じて、ＳＮＳの正しい利用法やコミュニケーションについて指導し、未然防止に努めたい。問題が発生したときは、迅速に対応し、必要であれば警察と連携し問題解決と再発防止に努めたい。

評　価　・　提　言　等	提言等に対する改善方策等
（４）進路指導	
○進学、就職ともに大きな成果を上げていると感じる。特に国公立大学への進学実績がこの２年間大幅に伸びている。宇和高ならではのサポート体制を中学校の生徒・保護者・先生に向けて積極的にアピールしてほしい。	○今年度初めて、宇和中学校での本校説明会において、国公立大学合格者と県職員採用内定者の３年生が語る機会を設け、年内入試及び就職試験の結果を早期に本校ホームページにも掲載した。今後も、積極的に生徒たちの進路実現の様子を発信していきたいと考えている。
○国公立大学への進学実績も大事であるが、生徒に寄り添った学習指導、進路指導をこれからも充実させてほしい。	○ホームルーム担任だけでなく、全教職員が全校生徒に関わる「宇和高校の面倒見の良さ」をこれからも大切にしていきたい。そのことが、今の実績の大きな要因だと考えている。
○検定は、合格による達成感や自信を得るとともに、社会で信頼・信用を得るために努力することの大切さを学ぶ貴重な機会として、今後も積極的に取り組んでほしい。また、社会的に評価の高い検定や上級資格、進路に直結する資格など、可能性の伸長につながる指導にも力を入れていただきたい。	○検定学習の過程で学ぶこと、合格で得られる達成感は、生徒個々の大きな成長につながるものであると考えている。様々な教育活動とのバランスを取るべく、担当教科間で連携を取りながら、精選して提示及び指導にあたっていきたい。
（５）特別活動	
○生徒数減少下における競技スポーツ等の充実は難しくなってくる。今後は、気軽に活動できる部やサークル活動など、柔軟に対応した魅力ある環境を整えることも考えていく必要があるのではないだろうか。	○平成 30 年にスポーツ庁・文化庁から発出された「部活動の在り方に関するガイドライン」を参考に部活動の在り方を改革していく必要があると考えている。
○教職員数が少ないため、部活動指導の負担は大変だと思うが、学校の活性化のためには部活動の充実が不可欠である。中学時代に所属していた部活動が高校にないのは生徒募集にも影響する。外部指導者の活用など、充実した部活動体制を構築してほしい。	○社会体育で活動する生徒の大会参加を可能にするため、２年前に社会体育文化部を新設し、生徒の多様な活動をサポートする体制を整えた。中学校で部活動の地域移行が進んでいるが、その動向を見極めながらさらに進めていきたい。
○部活動においては、スポ少や中学校との連携は切り離せない。市・体協等に働きかけて意見交換会や連絡協議会などの形で継続した話し合いを行い、信頼関係に基づいた連携体制を構築し、一貫した指導体制づくりが活性化への道である。機会あるごとに行政に反映されるよう訴える必要があると思う。	○野球部、陸上競技部等がスポ少や行政と連携を取りながらの活動を進めている。これらの取組を皮切りに、部活動と地域の関係を密にしていきたい。
○部活動の目標については、生徒の運動能力や技量に個人差があり、一律に県大会以上の出場人数を目標にするのではなく、生徒が部活動に参加した満足度や充実度を目標にすることも検討してみてはどうか。	○生徒が楽しみながらスポーツ・文化活動に触れることを念頭に目標の一部を「加入率 90%を超える魅力ある部活動の展開」と変更したところである。満足度や充実度を数値目標として適正に計る手法について研究していきたい。
（６）業務改善	
○教職員のストレスチェックが良好な結果で安心した。相互に助け合いながら業務を遂行できる環境を構築してほしい。	○ストレスチェックの結果は比較的良好であったが、教職員への業務負担は依然として改善すべき点が多いので、より効率的かつ効果的に教育目標が達成される業務体制を、引き続き検討していきたい。
○働き方改革や過重労働への対策が必要である。庶務業務などを処理するためのマンパワーの活用など、教職員が本来業務である教育活動に集中して専念できるような対策を積極的に講じていくことが重要である。	○今年度は配置された教育業務支援員に庶務的業務を担っていただける場面は多かった。しかし、まだ十分活用しきれておらず、時間外労働も恒常的に発生しているので、引き続き改善に努めていきたい。
２　重点努力目標について	
○重点努力目標そのものを評価する項目の設定があればいいのではないか。学校経営は重点努力目標に向けた具体的な取組がなされているので、その成果が分かるようにすれば良いと思う。	○現在は、それぞれの教育活動の成果を評価することによって、結果的に重点努力目標の達成度合いをみている形になっている。総合的な評価の意味を持つ評価項目の設定について検討したい。